

(1) 開会のことば（副校長）

(2) 校長あいさつ（校長）

評議員の皆さま、ご多用のところありがとうございます。今年度も無事に終えることができそうです。今日は中学部が、産直来夢くんへ販売活動に行きました。作業学習で作成した製品を今日の午前午後、金曜日の午前午後販売いたします。日頃の学習活動が地域で支えられることは、これから子どもたちの将来の姿に繋がっていくと思います。高等部は、実習で周りの皆さまはじめたくさんの方々にお世話になっております。12年間の子どもの学習活動が社会で花開くよう進めております。ぜひ、評議員の皆さま方から客観的な視点で評価、ご助言いただき学校経営に役立てていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をお願いいたします。

(3) 概要説明（今年度の振り返り）

ア 経営状況について（校長）

- ・平成27年度学校経営方針の数値達成目標のうち、達成できたが6項目（○印）、昨年度より上昇したが達成できなかったが4項目（△印）、減少したが1項目（□印）でした。
- ・教育課程の追及を行ってきました。子どもたちのニーズにより合った授業をどのように設定し、子どもたちが目標達成できるような授業の在り方の追求です。子どもに合わせたものでなければなりません。それを今年度は変えました。検証し、よりよい授業の在り方を常に求めていかなければなりません。私が赴任した当時は、76%の評価でしたが92%まで上昇しました。職員が努力した結果と感じています。
- ・学部間連携が課題の1つです。達成に1%至りませんでしたが、学校評価の担当から上昇傾向にある説明があります。
- ・児童生徒間交流について、高等部生徒が全校朝会の時に小学部の児童を教室まで迎えに行く取り組みを始めました。互いに相手を知る、自分を知る機会として始め、職員の児童生徒理解にもなっています。
- ・職員は、専門性を常に上昇させる努力をしなければなりません。研究会、研修会を行っています。今年度は実践交流会において、保護者の方にも日頃の研究、研修の成果を聞いていただく機会を設けて、ご意見をいただく場を設定しました。
- ・進路指導について、小学部から「じっくり、ゆっくり」と取り組んでいます。小学部から進路指導は始まっていることを保護者さんにご理解いただいています。保護者さん向けに進路説明会を開催し、前年度よりも出席者が増えましたが、更なる参加者の増加を望んでいます。
- ・支援学校（職員）が、地域の小中学校、高等学校等を支援する試みは10年が経過しましたが、現在も依頼は多い状況です。
- ・福祉の里まつりは、今年度で15回を迎えました。年々参加者が増えて盛況です。
- ・学校ホームページ（以下HP）は、全職員が作成者です。頻繁に更新をしています。アクセス数が多く、出版社から「開かれた学校づくり」の原稿依頼がありました。保護者さんだけではなくいろいろな方々がHPをご覧になっています。さらなる充実を図っていきます。
- ・ノーパソコンデー（以下：ノーPCデー）を提案しました。なかなか効果が見られません。教職

員間のコミュニケーションを図ることは児童生徒、学校が元気になることに繋がっていきます。互いが実践していることを見せる努力、見る努力をする必要があります。

- ・学校評価と反省を現在行っています。本日のご助言を踏まえて各学部、分掌で来年度の学校経営方針を検討していきます。昨年度まで校長が作成していましたが、今年度は最終的には校長がまとめますが検討にあたっては全職員が参画し、来年度の経営にあたります。
- ・以上が経営状況です。来年度に向けてご助言いただきたいです。

#### ■質問・意見

C氏：相談支援が10年経ち、(支援がなくてもよい状況になり)必要がなくなってくればとお話がありました。支援担当者による相談が助かっています。支援に役立っているという声が多いです。

(校長)小中学校への支援がなくてもよい状況づくりは、事業が続く限り継続していきたいです。様々なケースがあり、支援学校としても勉強になります。

C氏：働きやすい職場づくりについて、ノーPCデーは、PCがないと不便な時代なので先生方の大変さを感じます。

(校長)反対意見はありましたが、積極的な意見もありました。退勤1時間前ノーPCの取り組みを職員間のコミュニケーションに繋げるため継続したいです。初回は6割のPCが閉じていましたが、2回目は9割開いていました。強制ではなく、可能な限り継続したいです。

B氏：HP更新時のチェック体制について、お聞きしたいです。情報が流失しないようにしっかりとチェックをしてほしいです。

(情報部長)保護者さんから画像承諾書をいただき、名前、顔写真、住所について校長、副校長、作成者がチェックをしながら作成、更新しています。

B氏：働きやすい職場づくりについて、休まれている先生はメンタルなのか、病気なのか差し支えなければ教えていただきたいです。

(校長)過去に、メンタルで3名。現在は復帰しています。病気で休む予定が1名います。

B氏：難しいと思いますが、職員の増員や周りの職員がフォローをして仕事が煩雑にならないようにしていただきたいです。

#### イ 各学部状況(口頭説明)

##### ①小学部(学部主事)

- ・年度途中転入生を含み、現在38名の児童が在籍しています。たばしね学園生は8名です。学園職員さんと連携、共通理解を深め進めています。
- ・行事について、6年生は修学旅行(仙台方面)、低学年の前沢小学校間交流、一つ一つ目標を設定して達成感を得ながら、生活経験を広げています。
- ・今年初めてプール指導時に、ボランティア養成講座を受講したボランティアさんに監視員を依頼しました。(4~5回)

##### ②中学部(学部主事)

- ・4月36名でスタートしました。9月に1名転校生があり現在38名の生徒が在籍しています。学園生は8名です。
- ・9月に3年生が修学旅行(東京方面)、1月末に3年生は高等部受検に臨みました。
- ・地域活動として、10月に前沢文化と産業まつりにて作業製品販売をしています。また産直来

夢くんでも販売活動をし、地域の方に声をかけていただき交流しながら理解を深めていただいています。また、不定期ですが地域の清掃活動として、ゴミ拾いに取り組んでいます。

### ③高等部（学部主事）

- ・就業体験や校内実習を経験して全生徒に成長が見られます。
- ・新しい行事として、夏季休業中に体験学習及び高等部説明会を行いました。中学校、中学部生徒、保護者を対象に高等部理解の一環として行いました。
- ・生徒からの要望があり、12月に生徒会執行部を中心にクラスマッチを行いました。駅伝等の種目を実施して、クラスの団結、仲間意識が高まった行事でした。来年度も実施する予定です。

## ウ 児童生徒状況について

### ①在籍状況及び転入出状況（教務主任）

- ・設置形態、学級編成及び在籍数について説明。
- ・小学部38名、中学部37名、高等部89名。合計164名。男女比は、男子116名、女子48名です。
- ・出身地について、奥州市、一関市及び金ヶ崎町です。県外4名の内訳は宮城県3名（学園生）、福島県1名（震災関係）です。
- ・転入生について、4月に161名でスタートしました。その後3名（措置児）が加わり、現在の在籍は164名となっています。

### ②生徒指導状況・いじめ調査報告（生徒指導主事）

- ・事故問題行動の発生状況について、問題行動6件（昨年度4件）です。前期に集中し、同じ生徒が繰り返すケースが見られました。
- ・不審者と思われる人物の来校がありましたが、（警察への）通報には至っていません。
- ・児童生徒の捜索が3件あり、無事発見されています。
- ・不審者対策訓練は、今年度玄関からの侵入を想定して実施しました。全生徒の安全を確保しながら不審者へ対応する基本的訓練を岩手県警の協力を得て実施しました。
- ・いじめ防止対策等について、7月に県内で重大な事故が発生したことを受け、県でいじめ防止に係る研修会が開かれました。本校職員も出席し、その後、学校で伝達講習会を実施しました。
- ・本校では、いじめと認知される事例は0件でしたが、保護者からの相談が1件あり調査の結果、いじめではないことが判明いたしました。

### ③ヒヤリハット・アクシデント記録（保健主事代理）

- ・本校では、数年前よりヒヤリハットアクシデント記録に取り組んでおり、大事故に至らないまでもヒヤリとしたりハットとした事例を全職員で共有して事故の予防に活かしています。
- ・発生状況は、ほぼ昨年度と同様で今年度1月12日現在、64件（ヒヤリハット38件、アクシデント26件）の事案が発生しています。学年が上がるにつれて大きな怪我になる傾向があり、低学年からの情報共有をして気を付けていきたいです。

### ④定期健康診断結果、保健室利用状況及び日本スポーツ振興センター災害給付状況（養護教諭）

- ・岩手県では肥満改善について取り組んでいます。本校では中程度肥満の児童生徒を対象に希望で肥満改善食を提供しています。また栄養教諭、養護教諭と保護者で面談も行いながら継続的な体重測定をとおして推移を観察しています。
- ・保健室の利用状況は、6，9，12月に内科的な健康観察（念のためも含む）による利用が昨

年度と比較して増えています。

- ・日本スポーツ振興センター災害給付状況は、今年度2件の給付ありました。

#### ■質問・意見

C氏：HPについてとてもすばらしく、参考になりそうなことがたくさんあります。

(副校長)：いじめ調査報告、保健関係について(補足)

- ・本校のような特別支援学校では児童生徒の実態によって、他害がある子どももいることから誤解を招くこともあります。そのため十分な調査をしています。また、いじめ防止対策委員として、評議員の佐々木様、鈴木様にも構成員になっていただいています。
- ・いじめ防止としてアンケート調査を実施し、実態把握に努めています。本年度保護者より1件相談がありましたが、調査の結果いじめではないことが判明いたしました。保護者からも相談に際して表現が難しく「いじめ」という言葉を用いた経緯や本校の迅速な対応に感謝いただきました。
- ・ヒヤリハットアクシデント記録は、小さいことでも記録して職員会議のたびに報告し情報を共有しています。
- ・健康、衛生面について、細かく調査し家庭と連携、協力を努めている。

D氏：生徒の問題行動について、同じ生徒が問題行動を繰り返しているようだが、対策を教えてください。

(生徒指導主事)：問題発生後、その内容によって特別指導を保護者の了解を得て実施しています。主に個別に別室にて登校指導を行った結果、後期には発生せず、指導が有効的であったと評価しています。

(副校長)：未然防止の指導を学部や学級単位で行っています。発生した場合は、迅速に対応し指導にあたっています。登校謹慎として別室にて、行動を振り返り反省を深めています。

(校長)：非行問題に対して罰を与えるのではなく、プラスの指導をしていきたいです。

B氏：目的が定かでない一般人の訪問とあるが、外部からの侵入者に対して交番との連携はどうなっているかお聞きしたいです。

(生徒指導主事)：通報には至らないものですが、警察からは間違いでもよいので通報するように指導されています。また、不審者に対する行動マニュアルは、毎年見直して対応しています。

(副校長)：来校者の第一窓口は事務室です。不審な人物かどうか見極めを行っています。

B氏：ヒヤリハットアクシデント報告について保護者への説明が無い事例もあり、伝えなくてもよい程度としているかもしれないが、子どもが学校の様子を家庭で伝えられない状況もあると思うので、口頭でも伝えてもらいたいです。積み重なると学校への不信感につながると思います。報告するしないの判断について聞きたいです。

(保健主事代理)：学校での様子を知りたいという保護者の思いはそのとおりです。口頭でも伝えていきたいと思います。今後もより一層どんなに些細なことでもお伝えしていくよう努めます。

A氏：携帯電話の使用について、学校へ持参していないが、家庭で使用しているお子さんは何人いますか。学園生で興味がある子がいて規制ではなく、正しい使用という方向で考えていきたいので教えてください。

(生徒指導主事)：高等部3年生1名が、家庭でのみ使用しています。学校に持参している生徒は、登校後、担任に携帯電話を預けて下校時に持ち帰ります。

(校長)：現在所有している、もしくは将来所有が見込まれる生徒が、安心して使用できるように携帯

電話の安全使用とマナーの学習会を実施しています。

A氏：小学生が携帯電話に興味をもっています。

(小学部主事)：子どもを車内で待たせるときにスマートフォンを預けて外に出ないように安全に待っているという使い方はあると聞いています。

エ 支援センター部活動状況 (支援センター部主任)

- ・センター事業が10年経過して、発達障がいについて幼稚園、保育園から高等学校まで気づきがでてきていると感じています。
- ・診断名をつけることではなく、手立てを考える、対応の仕方の理解を伝えていくこと、保護者の方と共通理解していくことが重要であると考えています。
- ・特別支援ボランティア養成講座(花巻、一関、前沢の支援学校が持ち回りで担当)に15名が受講(8回/年)し、9名がボランティア登録をしております。

C氏：支援に対して感謝しています。支援内容をもとに関心をもって各学校で話し合いをしています。引き続き支援をお願いしたいです。

オ 地域交流実施状況 (総務主任)

- ・全11地区について実施しました。詳細については、HPに活動の様子がありますのでご覧ください。
- ・前沢地区の世話人さんとして、今年度はたばしね学園さんに協力していただきました。ありがとうございました。
- ・花巻地区は来年度、在籍児童生徒がいない見込みですので実施しない予定です。
- ・衣川地区では、衣川こぶしの会主催の「障がい者及び家族等地区交流会」に参加いたしました。行政の方も参加しての総勢約100名の規模でした。餅つきやみずき団子づくり、ゲーム、昼食会を行いました。本校関係者だけの活動ではなく、地域の方も一緒になった活動となり、卒業後の生活につながる有意義な活動になったと感じました。

カ 平成26年度卒業生の様子、平成27年度卒業見込み生徒の進路予定先 (進路指導主事)

- ・平成26年度の卒業生24名について、アフターケア担当からの報告をいたします。(口頭)
- ・今年度春には、進路先全てに訪問をして適応状況を確認しました。課題がある場合は、関係機関、障がい者の就業・生活支援センターへ支援の仕方について協力を得て対応しました。
- ・51件(平成26年度までの卒業生全てを含む)卒業後のアフターケア対応をしました。ただし、これは、電話での対応や卒業先に別件で訪問した際に依頼された事例を除いた数です。
- ・過年度卒者の支援ケースが多く、結婚や家庭問題等、内容も複雑化してきています。関係機関と半年単位の支援が必要な状況です。
- ・4月後半に離職した者は(第1回に報告)、現在は再就職しています。ハローワーク、胆江地区の障がい者の就業・生活支援センターの協力を得ながら移行しています。
- ・平成27年度卒業見込み生徒の進路予定先について、福祉的就労は15名が内定、一般就労希望8名うち2名が内定をいただいています。在宅は1名で、保護者の支援が得られないケースで生活の乱れや実習等の就労への取り組む意欲が不足しています。地域の関係機関の協力を得ながら支援を繋げていきたいと考えています。

キ 実践研究部活動状況 (実践研究部主任)

- ・3年次研究のまとめの年度として、研究収録を作成しました。研究収録は職員間だけのもので

したが、保護者や関係機関にも配布し、今後は、周囲と関係性を持ちながら進めていきたいと考えています。ご意見をいただき来年度の研究に役立てたいです。

ク 平成27年度学校評価について（副校長）

①職員

- ・回答率は、98.4%で昨年度より1.6%低下しました。評価の傾向として3.0以上（肯定的回答ポイント数）の項目は、15項目/22項目（昨年度16項目/22項目）と昨年とほぼ同様の結果となりました。
- ・職場アンケート「学部間連携」は、1項目が昨年度に比べ上昇し、1項目が昨年度と同じ結果となりました。
- ・学校経営方針で期待達成度（%）が示されている項目で達成した項目は、6項目/11項目（昨年度5項目/11項目）とほぼ同じ結果でした。

②生徒

- ・回答率は、65.0%で昨年度より3.0%上昇しております。
- ・全ての項目が、肯定的回答ポイント数である3.0以上でした。昨年度と比べ評価点が下降した項目はなく、高い評価でした。また、「わからない」と回答した割合も昨年度の13%から9%と少なくなりました。

③保護者

- ・回答率は、72.9%で昨年度より9.3%上昇しております。
- ・全ての項目が、肯定的回答ポイント数である3.0以上で高い評価をいただきました。
- ・昨年度と比べ上昇した項目は、3項目/18項目でした。また、下降した項目は、6項目/18項目でした。
- ・自由記述欄では、職員の対応について担任とコミュニケーションがとれない、連絡が遅いなどの記述がありました。保護者の方や関係機関の方が、気軽に声をかけられる雰囲気作りが求められています。
- ・寄宿舎生や学園生の保護者さんにも余裕をもって連絡が届くよう改善、工夫する必要があります。

④関係機関

- ・回答率は、100%で昨年度より7.3%上昇しております。
- ・全ての項目が、肯定的回答ポイント数である3.0以上で高い評価をいただきました。
- ・昨年度と比べ上昇した項目は、3項目/9項目でした。また、下降した項目は、2項目/9項目でした。

■質問・意見

C氏：一生懸命取り組まれていると思います。学部間連携や会議、打ち合わせで多忙化につながっていないか心配なところです。

ケ その他

(4) 協議・助言

A氏：ノロウイルス発生時は、ご迷惑ご心配おかけしました。終息に3週間を要しました。引き続き予防に努めていきたいです。今日は、学校経営、運営について聞かせていただき、学園として

も参考にしていきたいです。ありがとうございました。

B 氏：今回も事前に資料を送っていただき、ありがたかったです。今後もこのようにしていただくと事前に目をとおすことができるのでお願いしたいです。多忙感、身体や心に影響があると思うので、職員間で要領よく進めていただきたいと思います。お話しいただければ何か協力していきたいです。

C 氏：立派な評議員会を運営されていると思います。多忙のなか努力されている様子が伺えました。前沢劇場等、地域の行事にも参加していただいています。身体をいたわりながら頑張っていたきたいと思います。

D 氏：実習、研修をしていただいて私たちも理解が深まった部分があります。学校が元気になるために職員が元気でなければならないことは、民間でも同様であると感じました。

(5) 謝辞（校長）

評議委員の皆さまのご助言を次年度の経営に活かしてまいります。

センター機能について、我々の専門性を向上させる努力をしながら努めていきます。

児童生徒、保護者にとって安心、安全な学校であるように日頃から連携、情報共有していきます。不審者対応について、関係機関と連携を図りつつ進めてまいります。

職員の多忙化解消、職場の健康管理をして元気な学校づくりを目指していきたいものです。

本日は、ありがとうございました。

(6) 閉会の言葉（副校長）